

影響指向環境評価法とは何か

(Integrated Exposure and Effects Analysis (IEEA))

バイオアッセイスクリーニングと化学分析を組み合わせた環境試料の総合的評価法

代表世話人： 中島大介 (国立環境研究所)

世話人： 中山祥嗣、鈴木 剛、磯部友彦 (国立環境研究所)

近年、環境中化学物質の混合状態での影響を評価するための影響指向環境評価法開発プログラムが NIH や US EPA、EU などで行われています。国立環境研究所では、国際協調のため、統合曝露影響評価 (IEEA) 国際ワークショップを開催してきました。

本自由集会は、IEEA とは何か、どのような研究者の参画が期待されているかなどについて、具体的な研究例や世話人たちがこれまで進めてきた東南アジア地域における IEEA 研究者ネットワーク構築の取り組みと併せて紹介し、日本国内における IEEA 関連研究者の積極的な参画の促進とネットワークづくりを目的として開催します。

環境問題の解決には、様々なステークホルダとの協働のものと、あらゆる研究分野の研究者が統合的アプローチをすることによって解決すべき時代に突入しています。環境化学の分野でも、少なくとも影響と化学分析の分野は融合していく段階にあります。

環境汚染物質の化学測定に携わっている方、今後どんな物質の測定が求められているのか出口を探している方、毒性的アプローチや影響メカニズムをバックグラウンドにしている方、疫学的手法に使える環境データを探している方など、環境化学に関係する全ての分野の方の参加を期待しています。

プログラム (予定)

概要説明

1. IEEA とは何か、我々は何を目指すのか 中山祥嗣
2. これまでの IEEA の活動状況報告 齊藤 貢

事例報告

3. 「下水処理水中の合成糖質コルチコイドの分析・モニタリングと影響評価」

仲山 慶

話題提供

4. 「分析・モニタリング屋の限界」磯部友彦

5. 「毒性屋の事情」鈴木 剛

ディスカッション

- (分析屋からの目線で) 測るだけから脱却するにはどうしたらよいのか
- (毒性屋からの目線で) ぶっかけるだけの評価から脱却するにはどうしたらよいのか
- 投与量・投与物質だけの評価で何か問題なのか
- 単品を対象とした分析・評価は現実を反映するのか
- 化学物質の(真の)リスク評価には何が足りないのか、分析屋・毒性屋としてどう関わればよいのか

などを予定